

2025 年 9 月 7 日（日）第二礼拝「感謝の祈り」ヨハネ 11 章 33～44 節

この聖書箇所は、イエス様が死んで四日経ったラザロをよみがえらせたところです。このことを通して、イエス様がよみがえりであり、いのちであることを表されました。それは、私たちがイエス様を信じて永遠のいのちを受け、よみがえることを信じるためです。

第一番目、イエス様の涙と怒りです。イエス様の感情が強く表されています。マリアと一緒にいたユダヤ人が泣いているのをご覧になったイエス様は憤りを覚え、心の動揺を感じ、涙を流されました。罪によって死や病気、様々な問題が起こりますが、イエス様は涙を流して深く憐れみ、私たちの苦しみを共感してくださるお方です。しかし、ある者から「盲人の目をあけた方が、あの人を死なせないでおくことはできなかったのか」と言われた時、イエス様は憤りを覚えられました。サタンは死の勢力であり、イエス様のよみがえりといのちを否定しようとし、その人にそのような発言をさせました。イエス様は人に対しては憐みの心を持たれ、悪魔に対しては憤るお方です。将来の不安や恐れ、過去の傷に勝利した後に、再びサタンは不安や恐れを与え、過去の傷を開きます。ですから、イエス様のようにサタンに対して憤り、追い出さなければいけません。イエス様は石を取りのけるように言われました。石とは死を認めることです。この石を取りのけるかどうかは、私たち次第です。イエス様のよみがえりといのちを信じるなら、石は取りのけられ、神様の栄光を見ることができます。

第二番目、感謝の祈りです。石を取りのけた時、イエス様は感謝の祈りをされました。主の祈りに「御名があがめられますように」とありますが、私たちが感謝を捧げる時、主の御名があがめられます。主は感謝を捧げる人を捜しておられ、感謝の祈りを喜ばれます。ルカ 17 章で十人のらい病人がイエス様によって癒されましたが、そのうちの一人のサマリヤ人だけが戻ってきてイエス様に感謝を捧げました。その時、イエス様は「ほかの九人はどこにいるのか。」と言われ、感謝を捧げる人を捜されました。ヨハネ 6 章の五つのパンと二匹の魚の話においても、イエス様が感謝を捧げた時、そこにいた二万人が食べて満腹し、その余りは十二カゴになりました。ラザロが死んで四日経った時も、イエス様が感謝を捧げた時にラザロはよみがえりました。同様に、私たちが感謝を捧げる時、主の御名があがめられ、御心が天になるごとく、地にもなるように主がしてくださいます。

第三番目、感謝と信仰です。感謝を捧げる時、信仰が与えられます。イエス様は「父よ。わたしの願いを聞いてくださったことを感謝いたします。」と言われ、神様が既に祈りを聞いてくださったことを感謝されました。イエス様が感謝の祈りをなされたのは、周りの群衆、つまり、私たちの信仰が強められるためです。私たちがイエス様のよみがえりといのちを信じて、自分たちもよみがえり、いのちを得るためです。死んだラザロはイエス様の感謝の祈りや、「ラザロよ。出てきなさい。」という声を聞いて、その腐った肉体は変えられ、復活しました。同様に、イエス様が空中再臨され、私たちの名前を呼ばれる時、私たちは変えられ、引き上げられます。これが感謝の信仰です。感謝を捧げる者は主に引き上げられます。